

平成29年度 姉妹校等留学プログラム

台湾曾文家商学校訪問

(1) 学校・団体名/種類（派遣高校生的人数）

横浜市立横浜商業高等学校／海外研修（2名）

(2) 渡航先

国／都市：台湾／台南県麻豆市・台南県台南市・台北市

外国の高校：国立曾文高級家事商業職業学校、国立玉井高級工商職業学校

(3) 期間

平成29年10月31日～平成29年11月6日（7日間）

(4) プログラムの趣旨・目的

- 台湾の学生と接し、台湾の文化や考え方を知ることにより国際感覚を養う。
- 交流やホストファミリーと過ごすことで、日常会話としての英語コミュニケーション能力や異文化間コミュニケーション能力を養う。
- 事前学習を通じ、台湾と日本の関係の歴史や台湾の高校生との交流の意義について理解を深める。
- 国際都市横浜や本校の紹介を英語で行うことで、英語によるプレゼンテーション能力を養うと共に、横浜における台湾の学生との交流の更なる活性化を図る。
- 派遣後、全校生徒への報告の場を設定し、派遣の成果を学校全体に還元する。

(5) 活動内容

- 台南市にある台湾国立曾文高級家事商業職業学校を訪問し、英語、工芸、観光サービスに関する授業を受け、滞在期間中に現地校の体育祭に参加。
- 台湾高校生による台湾についてのプレゼンテーションを聞き台湾への理解を深めたのち、横浜市の歴史や観光の紹介、横浜商業高校について、日本の高校生の学校生活や実態調査に基づく発表を英語で実施。
- 現地では生徒宅へのホームステイにより、台湾人のあたたかいおもてなしの心に触れ、国際交流における「人と人の交流」の大切さを学び、現地の食文化、生活習慣の受け入れ、英語と中国語によるコミュニケーション力を養う。

(6) 実績・成果

○派遣高校生 KMさん

・「台湾交流」

私は10月31日～11月6日の6泊7日の交流プログラムに参加し、台南にある国立曾文高級家事商業職業学校との交流をしました。このプログラムを通して、台湾の文化

や日本の良さについて学ぶことができました。

1日目は、松山空港到着後、新幹線で嘉義駅まで向かいました。その後、ホストファミリーと学校で対面しました。2日目の朝は、ホストファミリーと一緒に車で登校しました。朝ごはんは学校に向かう途中のお店で購入し、学校についてから食べました。ほとんどの生徒が大きなドリンクを持ち、学校で朝食をとっていました。朝食は学校で摂るため、7時半にはほとんどの生徒がいました。現地の学生は、バイク・車・バスを使った登校が多くみられました。そのため、日本に比べ交通量も多く、歩道も少ないため危険だと思いました。道も段差がたくさんあり、危なかったです。日本は段差が少なく、ほとんどの道に歩道があることが当たり前だったので、日本の安全さを学びました。学校は日本よりも敷地が広く、施設も充実していると感じました。廊下がベランダのように外につながっているのが、風通しがよくて、過ごしやすかったです。また、木や緑が多く、リスを見かけることもありました。また、台湾の職員室にも驚きました。まず、扉がなく生徒が自由に出入りできていました。先生たちは、自分たちは友達のように寄り添い、なんでも相談できる関係に生徒になりたいといっていました。そのため入りやすい雰囲気だとわかりました。



学校見学後、横浜と私の高校・YSFについてプレゼンテーションをしました。私たちは山下公園や中華街、みなとみらいなどの観光地を中心に話しました。プレゼンテーションを聞いて横浜に行きたいと興味をもってくれた生徒や、2020年に開催されるオリンピックの時に、横浜にも観光に来たいと興味をもつ生徒もいて、とても嬉しかったです。日本に帰国してからも、LINEを通じて写真やビデオ通話をして横浜について情報発信しています。



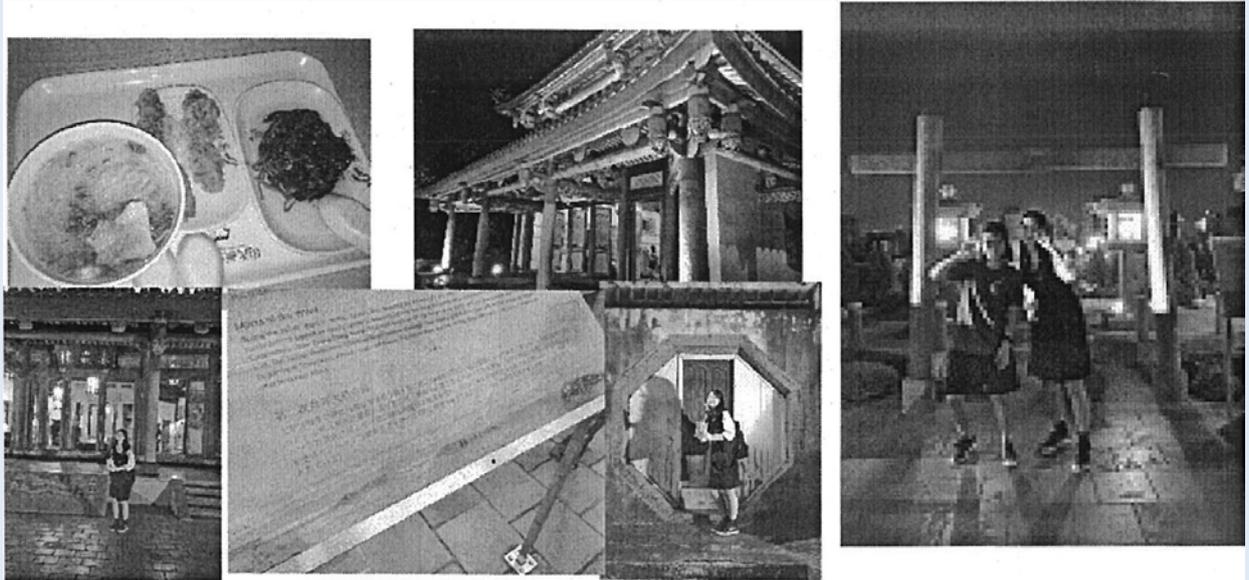
台湾のゲームや伝統的な歌にも挑戦しました。台湾の人は、変顔やダンスが好きであり周りの目を気にしないなと感じました。日本では、みんなが1歩引いて仲良くしているように感じています。しかし、台湾の人々は人に優しく思いやりがあって、自分の内面を表に出せていて、素晴らしいと思いました。また、お互いが英語を第二外国語として学んでいるため、ゲームのルールなどを理解し、実践することが難しかったです。だからこそ、何を伝えたいのか理解しようとする気持ちが大きかったと思いました。台湾に行く2週間前にアメリカにも修学旅行で行きました。しかし、台湾の方が話しやすく、楽しくコミュニケーションが取れたと思いました。

お昼はホストの子の教室で給食を食べました。給食はごはん・肉か魚・スープでした。

日本の小学校の給食と少し似ていると思いました。

午後はもう 1 つの交流のある国立玉井高級工商職業学校に行き、日本に送るポストカードを作ったり、台湾の名産マンゴーアイスを食べたりしました。学校に戻った後は、ホストファミリーの子とその友達の三人でバスに乗り、台南に向かいました。普段は学校終了後、みんなすぐに家に帰り宿題をしているとっていました。夕食は、米粉でできた麺と、豆花を食べました。

その後、固定古跡赤崁楼を見学しました。この建物は台湾南部を占領したオランダ人によって建てられました。台湾は、様々な国に統治されてきたことが街中や歴物を見て、分かることが出来ました。日本は戦時中朝鮮半島も同様に統治していた影響からか、日本が嫌いな人が多くいます。しかし、台湾には、朝鮮半島の国のように反日派ではなかったと感じました。そのほかにも、台湾を統治していた国の物が溶け込んでいて、それも含めたものが台湾の文化として残っていると学びました。

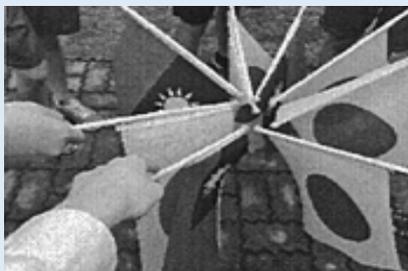


3日目は、学校に登校後、台南市見学をしました。国定史跡安平古堡にも行きました。この建物もオランダ人によって建てられていました。私はここに来る前は日本の建造物が沢山あるのではないかと考えていましたが、オランダの建物が多くありました。その後お寺に行きおみくじをひきました。台湾ではおみくじは無料で驚きました。また、お寺の天井は汚れていた方がいいと教わりました。汚れているのは多くの人に来ていて、天井にパワーがたまっているからだそうです。車で移動中にたくさんの畑を見ました。



4日目には、体育祭に参加し全校生徒と交流をしました。台湾の生徒は英語で会話できない人も多く、言語のないコミュニケーションを体験することができました。どうしても伝わらないときは、漢字やジェスチャー・絵でコミュニケーションをはかり、意思疎通ができました。日本や英語圏の国では体験できないことで、素晴らしい経験になりました。体育祭で行われるコンテストでホストファミリーのクラスのダンスと競技に参

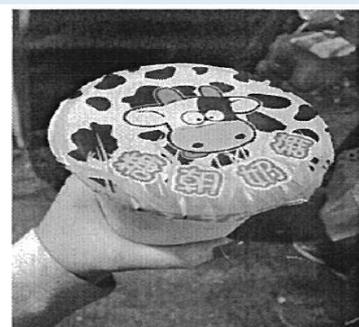
加させてくれました。ダンスでは1度もリハーサルができず、わからないことだらけでしたがクラスの人たちがジェスチャーで入場から退場までおしえてくれたおかげで、上手くいきました。また、私たちが台湾の国旗を持ち、台湾の子が日本の国旗を持って行進をしました。そして、この学校には昼食後の30分昼寝の時間があり、部屋を真っ暗にして誰も声を出しませんでした。少し寝ることで頭がすっきり授業の内容が定着すると思いました。私はこの時間が日本にもあったらいいと感じました。



競技では、私が今までに見たことがないものばかりでとても面白かったです。ですが、クラス対抗でおこなうシステムや、団結して取り組んでいる姿が日本の体育祭と似ていると思いました。競技のない時は、たくさんの人に囲まれて、順番に写真を撮ってといわれました。外国人だからという理由ではなく、日本人だからといわれました。堪能な日本語で話してくる生徒もいました。台湾では日本のドラマやアニメが毎日放送されており、人気だと知りました。台湾の人たちは本当に日本が好きということを実感することが出来ました。それに対して日本は台湾のことを良く思っているけど、そこまでみんなが好き!ではないなと感じました。もっと台湾について深く知りたいと思いました。私がこのプログラムに参加したのも、去年このプログラムに行った人から話を聞いて、行きたいと思ったからです。その人から話を聞くまでは、興味がありませんでした。次は私がもっとこの体験を伝え、行きたいと興味を持ち、台湾のことを好きになってもらいたいです。



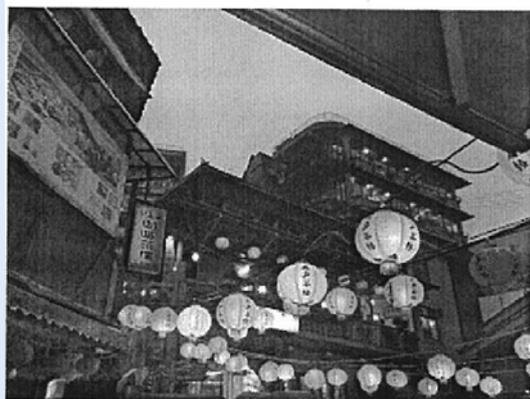
体育祭終了後は、夜市に行きました。夜市には、食べ物だけではなく、服やおもちゃも売っていました。台湾名物の臭豆腐も食べました。初めは独特なおいだと思いますが、思ったよりおいしかったです。また、夜市には豚の足や血のスープがありました。日本では全く見かけませんが、台湾の食べ物を余すことなく使っているからこそ、このような料理があることを学びました。今後人口増加により、世界的な食糧危機になるので日本も台湾のように食べ物を大事にするべきだと思いました。金曜日だったこともあり、多くの人でにぎわい歩くのも大変でした。ホストファミリーと過ごす最後の夜だったので、布団の中で学校生活についても話しました。



5日目の朝は起きてすぐに、一緒におりがみをしました。クローバーとくすだまの折り方を教えました。その後お寺に行きお祈りをしました。台湾の人々はよく日曜日は家族とお参りに行くそうです。日本では、この年齢になるとなかなか家族で過ごす時間がないので、日本はそのような時間が少ないと感じました。昼食は、北欧料理を食べに連れてってもらいました。台湾は、日本と同様に島国でありながら、多くの国から影響を受けているとわかりました。2時には新幹線で台北に移動するため、お別れをしなければなりません。みんな涙のお別れでホストファミリーに感謝の気持ちとずっと台南にいたいという気持ちで悲しかったです。日本へ戻っても連絡を取り合おうと約束しました。ずっと台湾にいてもいいなと思いました



6日目は、台北市内を観光しました。電車とタクシーで移動しました。電車は切符のようなものを買いました。しかし、プラスチックのコインで日本のものよりも環境に優しいと思いました。この日は雨でしたが九份にも行きました。有名な観光地のため日本人が沢山いました。お土産屋の人はみな日本語がうまくスムーズに買い物が出来ました。日本のお土産屋は、ほとんど英語も中国語も話せないなので、もっと話せるようになるべきだと思いました。



私はこのプログラムで台湾の学校と交流するまで、英語が完璧でないといけないと思っていましたが、この交流を通して、相手のことを理解しようとする気持ちが大事だと実感しました。日本語で考えずすぐに英語を話す能力も向上しましたが、相手が理解できるように考え、意思疎通する楽しさを学ぶことが出来ました。そして、台湾に行ったことで日本の良さや素晴らしさを実感することができました。水道面では、水道水が飲めないことが大変でした。日本の当たり前は世界に出ると全然当たり前でないと実際に体験できました。トイレの面では、学校のトイレにはトイレットペーパーがついておらず、職員室で紙を借りなければなりません。自分の置かれている現在の環境が良いと思いました。

はじめて学校で外国人という立場になり、マイノリティーの人の大変さがわかりま

した。わたしのクラスには6人の外国籍のひとがいて、常に目線を感じるのでつらいと言っていました。外国人が日本にいたことが当たり前になって目線を感じないようになるといいなと思いました。これからはマイノリティーの人のことをもっと考えたいと思います。また、海外=イギリスやアメリカという固定概念がすっかり変わりました。もっと、アジアにも留学の目を向けたいです。最後は日本に帰らないで、ずっと台湾にいたいと思うほど素敵な時間を過ごしました。今回は私が台湾に行きましたが、12月に私の学校主催で開催されるY S Fという学生会議に、この学校の生徒が6人來ます。そのときは、自分たちがおもてなしされたように、もてなしたいです。しかし、2泊して学校の授業などには参加しないので、もっと私の高校と台湾の高校が強く結ばれ、私の学校を紹介したいです。台湾と日本が国として、交流できるようにこの体験・経験を人にもっと伝えて、どんな形でもいいので役に立ちたいです。将来、観光系か教育の仕事に就きたいので、台湾でうけたおもてなしと良いと思った教育を忘れずに取り組みでいきたいです。

また自分の世界が広がったのでもっといろいろなところに行ってみたいと思いました。私はこの支援制度がなければ、台湾に行くことはできなかったのも本当に感謝しています。支援してくださった皆様ありがとうございました。

○派遣高校生 YYさん

私は、平成29年度台湾国立曾文高級家事商業職業学校訪問プログラムに参加し、2017年10月31日から11月6日まで台湾を訪問しました。滞在は約1週間と短かったですが、私はこのプログラムや現地の人々を通して、色々なことを肌で感じ、学びました。この研修中で一番印象に残ったことは、文化・習慣の違いと人と人が心を通じ合うことの美しさと喜びです。



まず一つ目の文化・習慣の違いについてです。私は以前から「文化」そのものや「文化・習慣の違い」にとっても興味を持っていました。今回の研修中ではホームステイと学校生活を通じて、強く興味深い台湾と日本の文化・習慣の違いを感じました。

一つ目は、台湾の生徒は朝食を学校で友人と食べることです。日本の学生の多くは、自宅で朝食を食べてから通学するのが一般的なのに比べて、台湾の学生の多くは、朝食を家で食わず、屋台やコンビニエンスストア等で朝食を買い、それらを学校の教室で友人らと食べるのが一般的だそうです。私は、ホームステイ中は毎朝写真のように、紅茶とパンケーキを食べていました。台湾の人々は活動時間が早く、また、共働きの両親が多いのでお母さんは朝食を用意しないそうです。また、台湾の学校は給食です。理由は朝食の時と同じです。日本では母親が「お弁当」を毎朝作るということをホストファミリーに伝えると、ホストマザーはとても驚いていました。また、台湾では朝によく「タピオカミルクティー」を飲みます。理由として、「タピオカミルクティー」を飲むと排便しやすくなるといわれているそうです。



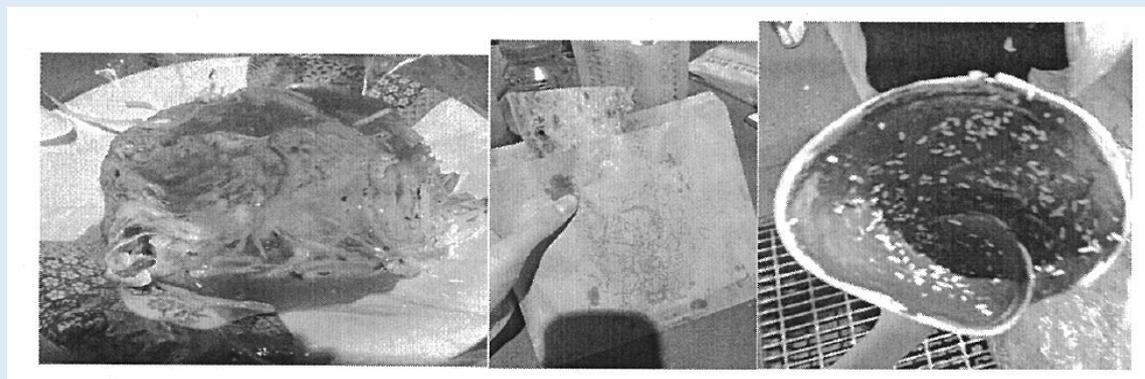
二つ目の文化の違いは、お寺・神社のお参りの仕方です。日本では、何かお願いをするときは、神社に行き礼をした後に、手をたたき音を出します。その後、お賽銭をし鐘を鳴らしますが、台湾では、お寺を訪れる時に、手を合わせるときは音を出しません。また、日本のように鐘はありません。そして、おみくじのひき方も違います。日本ではお金を払ってからおみくじを引き、自分の叶えたいことが書いてある部分を見ますが、台湾ではお金を払いません。また、おみくじを引く前に数字の書いてある木の棒を一本取り、自分の願い事を思いながら赤い三日月形の積み木のようなものを投げます。三日月が同じ方向になったら結果が書いてある紙を見、同じ三日月形になるまで何回も繰り返し返します。また、お寺の外観も日本とは全く違います。日本のお寺とは違い、台湾のお寺の外観は煌びやかでした。また、夜20時くらいにお寺を訪れても、お参りをしている人々は多くいました。



三つめは生徒と教師の距離がとても近いことです。これは、私が現地の学校生活を通して一番驚いたことです。例えば、私が現地の学校に着きホストシスターと会いホストシスターの家に向かうとき、ホストシスターと家が近い先生が仕事にもかかわらず、私の荷物が重いだろうからと車でホームステイ先まで送ってくれたことや、職員室で休み時間に生徒が先生の机を囲みお話をしたり、一緒にお菓子を食べたりしていました。職員室は常に暖かい雰囲気が出ていて、誰でも入りやすいように常に扉は開いていました。また、なぜこんなに生徒と教師の距離が近いのかと尋ねたところ、先生は、「生徒が勉強のことだけを集中できるように心掛けていて、いじめなどの勉強以外のほかの心配事を減らすために常に生徒と教員の距離を縮めるよう努力している」と言っていました。

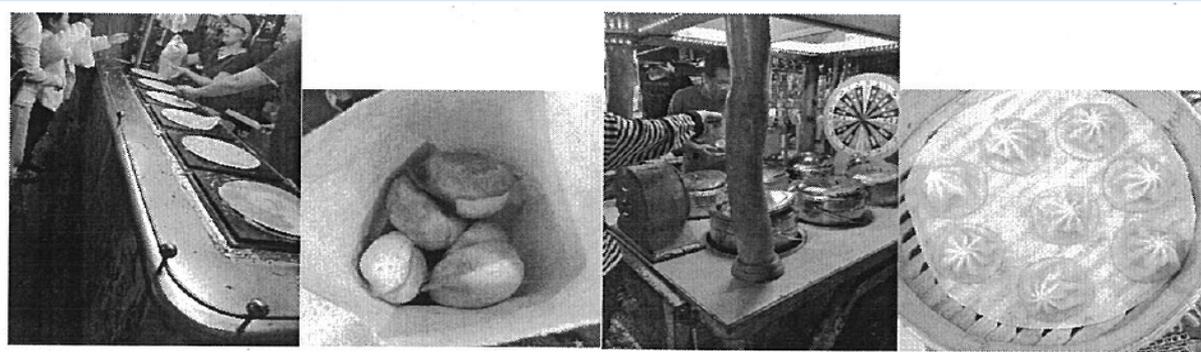
四つ目は、一日の授業時間の違いです。日本の高校ではたいてい一日の授業が6時間なのに対し、台湾では一日8時間授業があるのが当たり前だそうです。

五つ目に、Wi-Fi機能が日本よりも進んでいることです。これは日本でも同じですが、台湾ではいろんな場所にWi-Fiが飛んでいます。そして私が一番びっくりしたことは、政府がWi-Fiを飛ばしているということです。政府がとてもWi-Fiを重要視していることがわかりました。



六つ目は、「夜市」です。夜市は場所によって毎日行われているところもありますが、曜日を決めて行われているところもあります。夜市に行って一番最初に思ったことは、「日本の縁日」と似ているということでした。しかし、日本とは違い、食べ歩きが出来るものからテーブルに座って食べるものなど、食べ物の種類が幅広かったのが印象

的でした。また私は 2つの夜市に行ったのですが、どちらの夜市にも金魚すくいなどのゲームはありませんでした。しかし、射的に似たような鉄砲やダーツの矢などを使って風船を割り、景品をもらうようなゲームはあり、日本の縁日と台湾の夜市の違いをゲームを通して感じられたのはとても面白く興味深かったです。夜市の台湾の伝統的な料理が気軽に楽しめるところがとてもいいと思いました。また、夜市は私のような外国人にとって気軽に台湾の習慣・伝統を感じられる素敵なイベントだと思いました。私の学校では留学生受け入れをする時期があり、以前何度か日本の縁日に連れて行って見たら楽しめるのではないかと考えたことがあったのですが、日本の縁日は夏の決められた数日間しか開催されないので、台湾の夜市が毎日開催されていることがとても素敵だなと思いました。



そして二つ目に、人と人が心を通じ合うことの美しさと喜びについてです。私はこの研修を通して、台湾、特に台南市にかけがえのない素敵な友人達と出会いました。私と友人は意思疎通を図る時にいつも必ず、お互いにとっての第二外国語である英語を使って会話をしなければなりません。私は高校で国際学科に所属し、英語の授業では英語を話さなければならなかったり、英会話に約3年間通っていたりすることから、自分の意見を英語で伝えたり、日常的に英語を使ってほかの国の人と話したりすることに抵抗がなく、むしろ慣れていました。しかし、私のホストシスターが住んでいる地域には、彼女いわく外国人はあまり訪れないようで、外国人と英語でコミュニケーションをはかったり、友達になったりすることが彼女にとって初めての体験でした。なのでホームステイの初日はお互い自分の思っていることを英語でどう伝えるか戸惑い、あまりコミュニケーションは取れませんでした。しかし、二日目からは英語だけではなく漢字を使ってみたり、どういう言い回しの英語を使えば相手がより簡単に理解できるかなどを考えてみたりして徐々にコミュニケーションをお互い積極的に取るように心がけました。決してスムーズにすべての会話がうまくいったわけではありませんでしたが、この経験が私とホストシスターの結びつきを強くしたと思っていますし、この訪問を通して、同じアジア人が自分の母国語ではない第二外国語の英語を一生懸命話しながらお互いを理解しようとすることの素晴らしさと大切さを実感しました。私は、4日間の台南市、台湾国立曾文高級家事商業職業学校の訪問を通して、ホストシスターだけでなく、現地の生徒やホストファミリーとも絆を深め、かけがえのない日々を過ごしました。ホストシスターや友達と別れるときに、自分でも人と別れるのがこんなに寂しく、辛く、涙が止まらないんだと実感しましたし、彼らに出会えたからこんな風な気持ちになれたのだと思いました。今でも彼らとは連絡を取っていますし、今後もずっと取り合いたいと思っています。

私は今回の訪問で本当にたくさんのことを学びました。元々、このプログラムに参加しようと思ったきっかけは、「台湾に興味があった」とことと「将来の夢へ踏み出したい」ということでした。私の将来の夢は、日本と外国の懸け橋になり、お互いの国の

良さや、文化をお互いの国に伝え、広げることです。今回の訪問では、どんな言い回しで日本の文化や「いただきます」などの私たちが習慣的に使う言葉の意味などを伝えるか、文化とはどういったものかなどといったことを考え現地の生徒らと交流するときに感じ、学びました。なので、今後将来私は夢を叶え、今回の経験を仕事をしていく上で生かしていきたいと思います。

最後に、実際に台湾に訪問する直前までは、不安もありましたが、無事に終わることができ、かけがえのない友人を作ることができて本当に良かったです。いつも支えてくれた両親、家族、友人、私を受け入れてくれたホストファミリー、現地の方々、今回のプログラムに携わったすべての人々に感謝します。また、この訪問で終わりにせず今後も積極的に国際交流に励み、将来、立派な国際人になれるように努力を続けていきたいです。